

## 理想の住まいのカタチとは…。

—— 人生のパートナーが決まり、子供を授かる。そんな人生の転機には、誰しも家造りのことが頭をよぎるもの。このまま賃貸でいくか、家を建てるか。何が自分にとって一番いい形で、「正解」はあるのでしょうか。

「住まいのカタチは人それぞれで、賃貸や分譲マンション、持ち家という選択肢に『正解』はありません。飽きれば次の家に移れる賃貸のほうが、気楽でリスクも無いと考える人もいるでしょう。また、たとえば40代後半ぐらいでこれから子供の学費が一番かかるという方が住宅ローンを組むことは、現役で働ける残りの年

数を考えても難しいものがありますよね。でも

30代半ばのオトン予備軍世代であれば、生涯支払い続ける賃料の方が、新築する金額を上回る時が必ずやってきます。

だから若い人なら家を建てたほうが得です、ということではありません。家とは損得勘定ではなく、価値観の問題だと思えます。

今現在ではなく今後の自分の生活を守る基盤になるものをどう考えていくか、ということ。自分に何かがあった時、家族に財産として残せるものがあるかどうか。自分のことだけ、今のことだけ考えていいいいのか、ということに立ち返った時に、賃貸ではなく

隔月連載

# 造る喜び、 住まう喜び。

<http://www.fphome.jp/lia/>

01 そろそろ、家のこと。

職場で家庭でさまざまな責任を担うオトン予備軍の30代。そんな時期に頭をよぎるのは、やっぱり家のこと。「住まいを造る」とは、どういうことなのだろう。いま、新しい家造りのスタイルで注目を集めるチーム、「lia Style」のチームプロデューサー治部泰久さんにお話を伺った。

取材協力 / lia Style (株式会社FPホーム)

家を造るといふ選択肢が見えて来るのではないだろうか「家を建てたいと思ったらまず、するべきことは。」

—— 家を建てるという経験は、一生に一度あるかないか。後悔しない家造りをするためには、まず何をして、どこに行けばいいのでしょうか。

「きっとほとんどの人は、まずは住宅雑誌を買う、あるいは住宅展示場に行って『なんとなくいいな』と思える住宅メーカーを探す。そのどちらかだと思います。」

でも、本当にまずすべきことは、5年後10年後に自分達はどうしているかな、どうしたいのかな、ということ。夫婦でよく話すこと。どんな場所に住みたいか、子供をどう育てたいか、といったさまざまなことを二人で改めて考えてほしいんです。

そして、家造りを託す相手を探す時は、誰かに頼んで自分達の家を造ってもらうのではなく、自分の家は自分で造るといふ意識をもつこと。家造りのプロセスを一緒に楽しませてくれる相手、家という「箱」を造るのではなく、その

人の一生の『住まい』を造るといふ意識で取り組んでくれる相手を探してほしいなと思います」

そこに暮らす家族の生活スタイルや大切にしていきたいこと、10年後、20年後の姿を想像しながら、理想の家を自分達で形にしていこう「住まい造り」。それは一見大変そうなお作業でありながら、実はとっても面白そう。

次々号、連載第2回では、家造りを託す住宅メーカーの選定に大切な考え方、オーダーメイドの家造りについて、より掘り下げていきます。

### じぶ やすひさ 治部 泰久さん

1973年生まれ、下川町出身。「lia Style」(株式会社FPホーム) チーフプロデューサー。「会話から始まる家づくり」をテーマに、少数精鋭のスタッフが既存概念にとらわれない柔軟な発想で提案する住まいは、新しい家づくりのスタイルとして注目されている。

